

令和3年度第1回久御山町総合教育会議 会議録

招集年月日 令和3年11月29日
招集の場所 久御山町役場庁舎5階 会議室51
開 会 令和3年11月29日 午後1時30分開会 宣告
出席委員 信 貴 康 孝
内 田 智 子
豊 田 美 幸
阿 部 拓 児
田 口 賀 彦
欠席した委員 寺 井 恵太郎
職務のため出席した者の職氏名

総 務 部 長	森 山 公 雄
総 務 課 長	岡 井 和 久
教 育 次 長	田 井 稔
学 校 教 育 課 長	星 野 佳 史
社 会 教 育 課 長	森 本 智 代
学 校 教 育 課 主 事	奥 小 苗

議 第

- (1) 久御山町教育大綱の見直しについて
- (2) 意見交換

会 議 の 経 過

1 開 会

○信貴町長

- ・コロナ禍が1～2年ほど続いており、様々な行事が中止や延期、見直しを余儀なくされているところである。
- ・今日、京都府においては落ち着いているが、状況を注視しながら行事を含めて判断していく。
- ・平成30年度末に作成した久御山町教育大綱が3年を迎え、改訂をしなければならない。新たな教育大綱の策定に向けて、皆様の忌憚のないご意見を頂戴したい。

○内田教育長

- ・昨年度から小学校、今年度から中学校において新学習指導要領の完全実施となった。
- ・京都府においては、第2期京都府教育振興プランが出され、それに基づいて施策が行われている。
- ・今年1月には、中教審の答申「令和の日本型教育の構築を目指して」が公表された。その方針には、一人一人の児童生徒が自分の良さや可能性を認識するとともに、あら

ゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓く持続可能な社会の作り手となることができるように、資質や能力を育むことが求められている。そのような中、久御山の子たちを育む土台となる教育大綱の見直しということで、様々なご意見を忌憚なく教えていただきたい。

2. 議第

(1) 久御山町教育大綱の見直しについて

○星野学校教育課長《資料1に基づき説明》

・教育大綱については、平成27年度のこの会議で策定した。3年を計画期間とし、これまで平成30年度に改訂を行っており、今年度末で期間が終了する。つまり、今回が2回目の改訂となり、次の計画期間は令和4年度から令和6年度までを予定している。

・今回の改訂は、令和3年1月の中央教育審議会の答申及び令和3年度からスタートした第2期京都府教育振興プランを踏まえるとともに、時点修正として必要と思われる箇所の加筆や修正等を行う形で改正案を作成している。

・法律で参酌することとなっている、国の教育振興基本計画は平成30年5月から5年の期間で定められており、前回改訂時から変更がない。また、町の総合計画も平成28年から平成37年（令和7年）までとなっているので、基本的に大幅な変更を行うものではないと考えている。

・表紙については、計画年次を修正している。

・2ページは、引き続き第5次総合計画に基づく内容であるため、変更はない。

・大綱（案）の3ページ、新旧対照表の4ページについては、就学前から中学校卒業までを見通した、「学力の充実・向上」を図るとあるが、方向性について、より具体的になるよう追記している。「子どもたちが基礎的・基本的な知識・技能を習得するとともに主体的に未来を切り拓く力を身につけられるよう、言語力を高め、ICTを効果的に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの推進を図る。」と追記している。

・同ページ（2）教育方針の3つ目の○の項目、「育てる」となっていたのが、保護者視点での表現で「育てたいと実感できる」と変更している。

・大綱（案）の4ページ、新旧対照表の6ページ、（1）就学前教育の「推進」を「充実」としている。これは、前回見直し時に教育委員の皆様から「充実」が妥当ではないかというご意見があったが、当時認定こども園が始まったばかりの時期だったので、これを推進するという整理をした。今回は、施設の一体化も終わるタイミングであるので、「充実」という表現としている。

・次の3行について、元々、「子ども子育て新制度」が平成27年度にスタートし、男女ともに働き、家事や育児を行う社会へと変化しているという記載だったが、社会の変化があって、制度がスタートしたという形に改めたことと、性の多様性に配慮し男女という記載を改めている。

・その下の段落は、従前保育・教育に関する要領・指針について触れていたが、施設

の一体化整備が終了したことにより、「質」や「量」の記載を削除し整理をした。

- ・その下の段落の「非認知能力の醸成に努めます。」に久御山学園で育てたい力である「学力の基盤となる言語力」を加えた。
- ・次に、大綱（案）5ページ、新旧対照表の7ページの下の方、(2) 人生を主体的に切り開くための学びの1段落目、時代背景と求められる人間像について、第2期京都府教育振興プランから参照した記載としている。
- ・その下の段落、自己指導能力についての記載の中で、就学前教育との連続性を表現するため、「就学前から系統的に育てきた非認知能力を基盤とした」を追記している。
- ・その2つ下の段落では、昨年度末からGIGAスクール構想が進められていることから、ICTの活用と個別最適化した教育について追記をしている。
- ・同じページの(3) 家庭・地域社会の教育力の向上について、新旧対照表では8ページから9ページのところ、1段落目の記載について、現行では、時代の急激な変化についてネガティブな記載となっているが、時代背景や家庭・地域の教育力の重要性について、第2期京都府教育振興プランを参照し表現を変更している。
- ・次の段落では、家庭教育についての記載の中で、先ほどの1段落目の記載と整合する形で、『「包み込まれている感覚」の基礎を築く』という表現を追記した。
- ・大綱（案）6ページ、新旧対照表の10ページから11ページにかけて記載している、(5) 生涯スポーツの機会を充実の一番最後の段落は、前回の見直しで追記された事項だが、2020年東京オリンピック・パラリンピックが終了したことに伴い記載を削除する。

○信貴町長

- ・「はぐくむ」という表記を漢字に変更したのか。

○星野学校教育課長

- ・従前の教育大綱では、「はぐくむ」と「育む」が混在しており、町の総合計画における基本理念の中では、漢字で記載されているので、統一した。
- ・大綱（案）の5ページ、「人生を作り出せる」と記載しているところについて、京都府振興プランでは創造の「創」なので、改める。

○阿部委員

- ・書いてある内容については納得できるが、具体性が見えない。そもそも大綱とはそういうものなのか。

○星野学校教育課長

- ・基本的には、大きな枠組み、国の方の教育振興基本計画が一番おおもとにあり、それを参酌して基本的な方針を地方公共団体が大綱として定めるとなっている。
- ・久御山町においては、久御山町の教育や町の実施計画で事業の細かい部分を定めている。

○阿部委員

・前回の教育大綱には、2020年の東京オリンピック・パラリンピックという具体的なことについて記載されている。With コロナやAfter コロナがこの1、2年を象徴する出来事であるにも関わらず、それが全く反映されていない。今回の大綱を何年後かに見たときに、コロナ禍で教育がどうあるべきかということは示した方が良いのか、逆に、コロナがこれからどうなっていくか誰にも分からないので示さない方が良いのかは分からないが、コロナがここまで出てこなくても良いのか、という事は感じた。

○信貴町長

・コロナという言葉を出した方が良いのかどうかは私にも分からないが、世の中が大きく変化し、今後もゼロにならないと思うので、何か表現を入れても良いかなと思う。

○星野学校教育課長

・時代背景を書くときに、コロナについて書きかけて、省いた経過がある。ただ、阿部委員がおっしゃったように、コロナを踏まえて教育活動をしていかないといけない。With コロナを含めた視点を盛り込むことで、この年度の大綱として特徴的なことにはなると思うので、検討したい。

○阿部委員

・Society5.0は大綱中に出てきているが、SDG sは出てこない。Society5.0の考え方とSDG sの考え方は、同じ様な方向を見つつも少し互いを牽制し合うところがある。Society5.0を出すのであれば、SDG sも出した方が良いのかなと思う。

○星野学校教育課長

・阿部委員のおっしゃるとおり、SDG sについて明確に触れている箇所はない。どこに入れるか、検討をしたい。

○豊田委員

・ICTの活用に関して、どのような形で活用するか、方向性を示した方が良いと思う。タブレットの機械的な操作と同時に、どういう方向に向かって活用していこうと思っているのか、明らかにした方が良い。

○内田教育長

・教育大綱（案）3ページ、「ICTを効果的に活用」をもう少し具体的に記載したい。
・タブレットを使用することで、誰がどのように考えているかが一瞬にして分かるが、それを話し合うのは人の繋がりであり、そのあたりをもう少し詳しく書かせていただきたい。

○田口委員

・私が次長の時に初めて策定した教育大綱は、おおまかな内容のものだった。

- ・コロナによって現場が大きく変わったが、先生方は柔軟に対応されている。
- ・最近になって、With コロナという1つの方向性が見えたと思う。そこに向けて、教育大綱で具体的に示していただき、大きな柱や目安になりうるものになればいいと思う。

○阿部委員

- ・基本的なことだが、5ページ目の「0歳から15歳までの育ちと学び」の段落、「多様な子ども一人ひとりの能力や適性等に応じてた教育を進め、」というところで、多様というものがSDGsのすごく重要なキーワードになる。教育長のお話を伺って思ったのが、「多様な」というワードをどういう風に活かすかが重要だと思う。今この文章で言うと、多様な子どもたちに応じた多様な教育を進めるということを示すために、「多様な」という言葉を「応じた」の後に入れ、「子ども一人ひとりの能力や適性等に応じた多様な教育」としてはどうだろうか。さらにSDGsの観点で言うと、「多様な」よりも「多様性」という名詞型の単語の方がキーになってくるので、「多様性に飛んだ」というような言葉をいれることもできる。

○信貴町長

- ・今頂いたご意見やSDGsについて、表現することが可能なのか、検討していただきたい。

○豊田委員

- ・「園小中一貫教育」という言葉はあるが、「久御山学園」という言葉は入れない方がいいのか。久御山学園は、久御山町の教育を一言で表す特徴的な言葉なので、入れた方が久御山町らしさがでると思う。

○星野学校教育課長

- ・これまでの大綱に入っていない経緯は分かりかねるが、豊田委員がおっしゃるとおり、久御山学園が本町の教育の中心となるものである。総合計画の学校教育の中には、「久御山学園」という言葉が入っている。

○豊田委員

- ・どこに入れて欲しいということはないが、久御山学園のことについて色々な言葉を使って表現しているな、と感じる部分がある。

○星野学校教育課長

- ・久御山学園という概念が一般的でないとするれば、注釈か何かは付けないといけないと思う。

○豊田委員

- ・初めてこの言葉が出てくるときには、説明を兼ねた文書と共に出していただいた方

が、良いかと思う。

○阿部委員

- ・逆に、なぜこのタイミングで出てくるのかという疑問がでないか。

○信貴町長

- ・教育に関する久御山学園という文言を使うときには、知らない方がおられた時のために、注釈を入れるよう指示をしている。もしかすると、前回まではそのような観点から使わなかったのかもしれない。
- ・注釈をつけて分かるようにすれば、今後使わせていただいてもいいのかな、と思う。

○豊田委員

- ・私のイメージは、ただ園小中一貫教育の久御山学園というよりかは、地域との連携を活かしたコミュニティ全体として子どもを育てる、という概念を久御山学園という。
- ・学校だけではなくて、学校教育課と社会教育課が連携して、子どもを育てていく理念に久御山学園という名前をつけているのかな、という捉え方だったので、注釈を毎回付けてでも出しても良いのでないかと思う。

○田口委員

- ・学校間だけが繋がっているような学園はどこにでもある。地域を巻き込んでやっていこうという動きを久御山学園としている。
- ・本当は、学校が一番安全なところで、一番便利がしやすいところ。
- ・今、地域と繋がって、コミュニティスクールをやってくれている。

○信貴町長

- ・それでは、注釈をつけながら入れていきたい。

○内田教育長

- ・大綱を基に、具体的な施策についてはお示しをさせていただく。
- ・自己指導能力や言語力というものは、力をいれていきたいと思っているので入れさせていただいている。その他の施策については、個々に出ささせていただきたいと考えている。

○信貴町長

- ・以前、町村会で東成瀬村という学力日本一のところへ視察に行った。小学校の頃から人前で意見発表をするなど自分の表現を大事にされており、自らの取組が能動的であることが学力に繋がると感じた。
- ・教育大綱（案）6ページの、（6）まちへの誇りと郷土愛の醸成のところ、次年度京都府に文化庁がくるので、京都府は文化の醸成がさらに叫ばれてくると思う。そのあたりについて、なにか分かるような表現が欲しいので、検討して欲しい。

・昨日、お茶の品評会の表彰があり、佐山の阪田さんがてん茶の部門で1位・2位を獲られ日本一となり、産地賞をいただいた。

・教育の場においても、日本一のお茶が久御山にあることを知ってもらいたいという思いを阪田さんが語っておられた。このような文化の発信についても見越していただきたい。

○豊田委員

- ・農業は久御山町の特徴の1つなので、中学生に職業体験に行って欲しい。
- ・農業がどのように発展して今に繋がっているかを知ること、伝統や文化を学べる。

○星野学校教育課長

- ・校園長会などの場で、学校の先生方に紹介をさせていただきたい。

○信貴町長

・社会教育施設として、全世代全員活躍型のセンターを令和6年竣工予定で進めている。このことについて触れるべきかどうか、検討していただきたい。

○森山総務部長

- ・「(4) 人と人がふれあい、尊重し合う心の育成」に入れるのもいいと思う。

○信貴町長

・次回にお示しする教育大綱(案)では、本日出たご意見を検討したうえで反映させていきたい。

○星野学校教育課長《資料2に基づき説明》

- ・令和3年12月21日(火)に第2回総合教育会議を開催させていただく。
- ・庁内としては、部長会議にて教育大綱の中身について説明をさせていただく。
- ・議会の常任委員会が1月26日(水)にある。その時に、パブリックコメントをする旨と概要を説明する。
- ・1ヶ月間パブリックコメントで一般の方の意見を徴収させていただいた後、そのコメントを盛り込んだ中身を最終的に総合教育会議でお示しして、内部決裁をし、3月の議会に報告をする。

(2) 意見交換

○田口委員

- ・佐山小学校の北校舎と中校舎を綺麗にしてあげて欲しい。

○豊田委員

- ・トイレなど、子どもたちが掃除をする甲斐がないので、教育的に良くない。

○信貴町長

- ・トイレについては、洋式化も含めて計画的に進めていく。
- ・個別施設計画を策定しており、今後様々な施設の改修の時期が重なっている。それを平準化するために、前倒しして長寿命化が必要となってくる。優先順位を決めながら考えていかねばならないと考えている。

○豊田委員

- ・歩くまち久御山のように、町全体として久御山学園について取り組めるとすごくいいと思う。

○信貴町長

- ・歩くまちの推進は、全庁的に横断で推進委員会を作っている。これからも、十分に議論しながら進めていきたい。
- ・貴重なご意見として頂戴する。

午前 14 時 40 分 閉会